

市民文芸

短歌

阿南市文化祭秋季短歌大会選

佳作 青木 弘子

若きらとラインをなさんとスマホ買い八十路の手習い秋の夜更けに

佳作 佐野 幸子

いつせいに彼女を思う一分間じよっぱりだったおしゃれの好きな

佳作 臣永 悦子

登校の子の姿なき信号機青はすすめと一分ともる

佳作 長尾 久子

「鹿服」^{あらたえ}に使う種まく阿波藩を誇りに思い一日過ぎゆく

佳作 高尾 久枝

刈り藁が水に浸りて醗酵す自然の異臭も友となる日ぞ

佳作 木内 照代

遠き日のわれと並び聴いている鳴き細りゆくひぐらしのこえ

佳作 山本 賀代

「異常なし」主治医の言葉に暗かった夫の表情ぱつと明るく

佳作 福崎 孝子

生かされて生くる喜び文月よ八十路を手折るわがバースデー

佳作 松江 敬子

徳島に大空襲があった夜母のお腹で吾は育ちつ

佳作 谷一 民子

「おばあちゃん僕もうスプーンいらないうよ」おはしで運ぶふりかけ御飯

俳句

阿南市俳句連合会選

買わずには戻れぬ性や苗木市

七半の音高くして遍路ゆく

春寒やマスクが動く新コロナ

冴え返る一人夕餉の早九年

春の海コバルトブルーの潮境

軒先を一回りして初燕

落ちてな我が身彩る椿かな

春めくや園児の列が通り過ぐ

合格の吉報届く春の風

田螺採り膝までズボンめくり上げ

奥田 蒼朗

山川 喜美

岡久 玲子

西條 佳恵

表原 清美

中富はるか

吉崎 晶子

七條クミエ

山田 美紀

近藤ヤス子

川柳

阿南川柳会 田上鶴子選

抱き合つて乙女ら春の園菓立つ

逢うたびに美人になっている彼女

ウイルスが怖いと地球マスクする

LED^{エルイディ}棚田に光る村おこし

逢うと言いつわぬと言ふも春がすみ

手先冷え握った手と手情かわす

滝川 太郎

多田紀久代

鈴木レイ子

野口 吾朗

原 公美子

持木 寿栄

一般応募

住む人の優しさ見える庭の花

鳥尾美津子

ドアノブに野菜どなたと来たのかな

武田 敏子

自画自賛発表の日が来るまでは

仁井 信子

町民のアートが映える防波堤

吉田 當代

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

冬夜吟 神原 常経

落葉閑庭瓦上霜 落葉の閑庭 瓦上の霜

書窗寬寬凜寒光 書窓 寛々 寒光 凜たり

爐邊可味三餘樂 炉辺 味うべし三余の楽しみ

誦讀津津冬夜長 誦読 津津 冬夜 長し

送春感有り 増喜 泰典

愁聽孤鶯訴怨聲 愁え聴く孤鶯 怨声を訴え

歸來雙燕弄新晴 帰り来たる双燕 新晴を弄す

一春忽覺跡如夢 一春 忽ち覚め跡夢の如し

庭樹枝頭嫩綠輕 庭樹の枝頭 嫩緑軽し

太龍寺舎心嶽弘法大師坐像 田中 公

衣荒風雨千尋嶽 衣は風雨に荒む 千尋の岳

身富春秋十九齡 身は春秋に富む 十九の齡

百萬眞言有誰應 百萬の眞言 誰有りてか応えん

虚空菩薩曉天星 虚空の菩薩 暁天の星